

平成30年度 地域力向上事業 ひとりでできる1年生 おおすみくん家 キッズクラブ①②

- 1 趣 旨 小学1年生の子供達が、親元を離れて共同生活や自然体験活動を行い、仲間と関わったり、遊んだり、協力したりする活動を通して、人と関わる力や基本的な生活習慣を身に付けるとともに、体験活動の好きな子供を育てる。
- 2 期 日 第1回目 平成30年6月16日(土)～17日(日) 1泊2日
第2回目 平成30年9月15日(土)～16日(日) 1泊2日
- 3 対象者 小学1年生
- 4 募集定員 30人(申込者182人)
- 5 参加者 30人
- 6 指導者 国立大隅青少年自然の家職員(1・2回目)
鹿児島県立霧島自然ふれあいセンター職員(2回目)
- 7 活動場所 1回目 国立大隅青少年自然の家
2回目 鹿児島県立霧島自然ふれあいセンター



8 日程と主な活動

(1) 1回目(国立大隅青少年自然の家)

6月16日(土)		6月17日(日)	
10:00	受付	6:00	起床
10:30	出会いのつどい オリエンテーション	7:00	朝のつどい
10:45	チャレンジ1「ふれあいタイム」	7:30	朝食<レストラン>
12:00	昼食<レストラン>	8:30	片付け
13:30	荷物の整理	9:00	チャレンジ4「水鉄砲で遊ぼう」 ・遠くまで飛ばそう ・的当てゲーム
15:00	チャレンジ2「元気よく遊ぼう」 ・フィールドアスレチック ・草スキー	12:00	昼食<お弁当>
17:00	夕べのつどい	13:00	ふり返りタイム
18:00	夕食<レストラン>	14:00	別れのつどい
19:00	チャレンジ3「水鉄砲作り」	14:30	解散
20:00	入浴		
21:00	就寝		

(2) 2回目(鹿児島県立霧島自然ふれあいセンター)

9月15日(土)		9月16日(日)	
11:00	受付	6:30	起床
11:20	出会いのつどい オリエンテーション	7:00	朝のつどい
12:00	昼食(弁当)	7:30	朝食<洋朝食>
13:00	キャンプ場へ移動・説明	8:00	片付け・本館へ移動
13:30	チャレンジ1「ハイキング」 ・創作活動の材料集め	9:00	チャレンジ4「写真立て作り」 ・前日集めた自然物で工作
14:30	チャレンジ2「テント設営」	12:00	昼食<レストラン>
16:00	チャレンジ3「カレー作り」	13:00	ふりかえり
19:00	夕食 ・みんなで夕食	14:00	別れのつどい
20:00	片付け	14:30	解散
21:00	就寝		

9 事業運営について

本事業は、1年生のみを対象とし、友達との交流活動、自然体験活動を取り入れながら、基本的な生活習慣の定着を目的として実施することとした。

さらに同じ子供を2回集め、仲間意識の向上を図るため本事業を計画した。

- (1) 「早寝・早起き・朝ごはん」の実施や食事及び寝具の準備、片付け等の活動を通して、基本的な生活習慣の意識を高めるようにした。
- (2) フィールドアスレチックや水鉄砲作り、自然散策、自然物での工作等の自然体験活動を通して、自然と触れ合う喜びを味わえるようにした。
- (3) ふれあいタイムやテント設営、カレー作りを通して、友達と交流を深め、お互いの良さに気付かせ、協力することの大切さを学ばせるようにした。

10 事業の実際について

(1) 1回目の活動(9/15~9/16)

① ふれあいタイム

初めて出会う参加者が、緊張をほぐすことができるように、ボランティアを中心に、各グループ円になり、自己紹介をさせた。

また、1生でも簡単にできる輪くぐり競争ゲームなどを行ったことで少しずつ親睦が深まっていった。



② 元気よく遊ぼう

フィールドアスレチックと草スキーを行った。安全確保のため、できそうなものにチャレンジするように事前指導した。また、職員・ボランティアで全体を見るようにして安全確保に努めた。多くの子ども達がアスレチックにチャレンジし、意欲的に楽しんでいった。また、草スキーも初めは怖がっていた子供も友達と一緒に滑ってだんだんと慣れてきて、最後には何回も滑って楽しむ姿が見られた。



③ 竹水鉄砲作り

あらかじめ準備していた筒と柄になる竹を見せ、実際に竹水鉄砲を作り、引いた時にぼんっと音が出るようにさせた。竹を扱った子供が少ないと考えたため、ささくれ等に注意させるとともに仕上がり具合を確かめる時に周囲に友達がいないか確認させるようにさせた。

最後に筒の部分に自由に絵を描かせ、世界に一つだけの「竹水鉄砲」を完成することができた。



④ 竹水鉄砲で遊ぼう

あいにくの雨で海での活動ができなくなったので、急きよ、大浴場での水鉄砲遊びを行うことになった。子供達に楽しんでもらうために職員が「海の大魔王」に扮して、的当てのミッションを与えるゲームを行った。限られた空間での活動になったが、ボランティアの協力を得て、ゲームを実施することができた。実際に自分が作った竹水鉄砲から遠くまで水が飛んだり、うまく的に当たったりした時、うれしそうだった。



(2) 2回目の活動(9/15~9/16)

① ハイキング

霧島自然ふれあいセンターのキャンプ場

周辺で2日目の工作で使う材料を集めながら、散策した。写真立ての完成をイメージできるように事前に完成品を見せ、どんな材料を見つければいいか考えさせた。どんぐり等は少なかったが、椎の実、松の葉、マツボックリなど様々な自然物を探していた。途中、秋の虫を見つけて、喜んでいる姿も見られた。



② テント設営

霧島自然ふれあいセンターの職員の話を実際に聞くことができた。手伝いを依頼されると多くの子が積極的に手伝っていた。ボランティア・職員の手伝いをもらいながらではあったが、テントを設営することができた。最初は時間がかかり、難しいのではないかと危惧していたが、子供達なりに話し合いながら、役割を分担し、お互い協力し合う姿が見られた。全員で完成したテントの中に入って喜んでいました。



③ カレー作り

初めに霧島自然ふれあいセンターの職員から野外炊飯での安全面について指導があった。その後、野菜切り班、お米班に分かれて取り組むようにした。ピーラーを使うと手を切る恐れがあったので、子供用包丁を活用して安全に気を付けて取り組ませた。お米班にも野菜を切る作業をさせたかったため、交代で野菜を切る体験もさせた。ボランティア1名、職員1名計2名が、各班に必ず付いて指導を行った。慣れない手つきではあったが、それぞれが安全に気を付けて取り組んでいた。自分たちで作ったカレーは、格別だったようで班の友達と笑顔で食べていた。



④ 写真立て作り

前日に拾った枝や実などをどこに何をどんなふう飾ればいいのかを子供達なりに試行錯誤し、作成を進めていた。

また、今回は、グルーガンを使っての活動だったので、注意点を最初に指導し、ボランティア・職員を各班に配置し、安全面に配慮した。最終的にそれぞれ思い思いの作品が仕上がり、うれしそうに作品を紹介する姿が見られた。6月の活動時の集合写真を配布し、出来上がった写真立てに入れさせた。

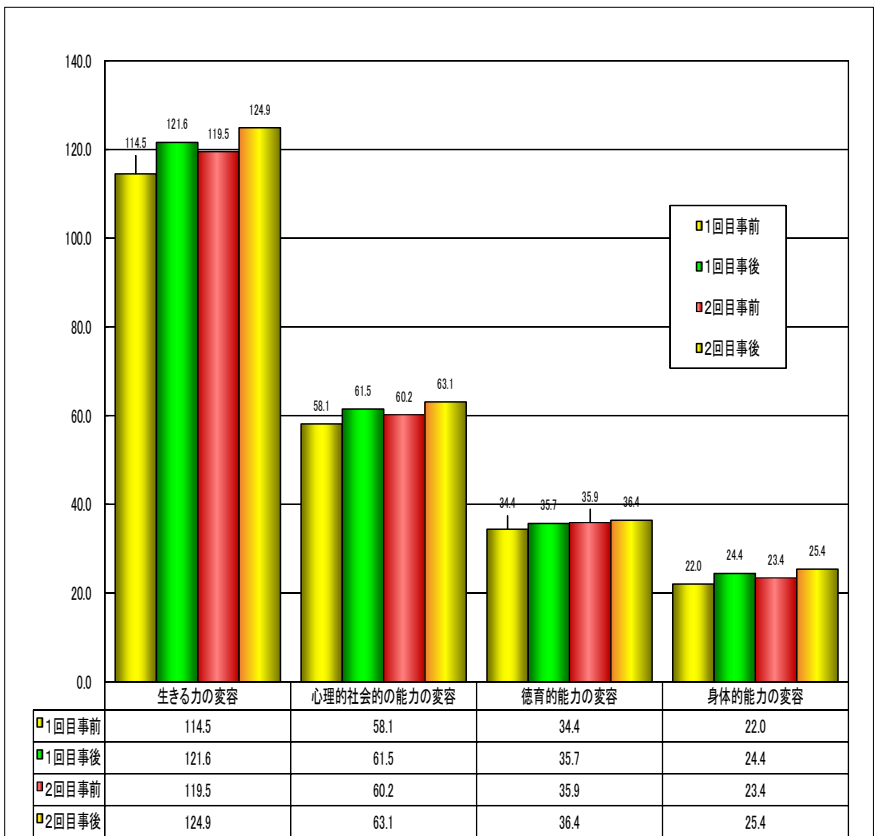


11 IKRアンケート結果

参加者の各家庭に合計で4回IKRアンケートを依頼した。

生きる力の変容を見ると、1回目事前から1回目事後で、7.1ポイント、2回目事前から2回目事後で、5.4ポイント上昇していた。生きる力の変容を1回目事前、2回目事後と比較すると10.4ポイントも上昇する結果となった。他の3つの変容を見ても1回目事前から全て上昇しているのが分かる。

また、アンケートの28項目の中で、1回目事前から2回目事後を比較して、0.5ポイント以上の上昇が見られたのが、「小さな失敗を恐れない 0.6ポイント上昇」「自分からすすんで何でもやる 0.57ポイント上昇」「失敗しても、立ち直るのがはやい 0.65ポイント上昇」「先を見通して、自分で計画を立てられる 0.65ポイント上昇」「自分で問題点や課題を見つけることができる 0.61ポイント上昇」(心理的社会的能力)、「早寝早起きである 0.56ポイント上昇」「暑さや寒さに、まけな



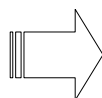
【表1：IKRアンケート】

い 0.72ポイント上昇」「とてもいたいけがをしても、がまんでできる 0.89ポイント上昇」「ナイフ・包丁などの刃物を上手に使える 0.55ポイント上昇」(身体的能力)、以上9項目であった。このことは2回の活動で、布団の準備・片付け・テント設営、決められた時間で行動、野外炊飯でのカレー作り、竹水鉄砲や自然物での写真立て作り等様々な経験を通して、1年生なりに自信を持っていったことが要因と言える。

12 参加者感想 (○ 楽しかったこと □ がんばったこと △ もう少しだったこと)

～第1回目：子供の感想～

- アスレチックが楽しかった。
- 水鉄砲が楽しかった。
- そうじをがんばりました。
- ふとんをたたんだこと。
- △ あいさつがもう少しだった。
- △ 毛布がたためなかった。



～第2回目：子供感想～

- カレー作りの野菜を切るのが楽しかった。
- いろいろな人達と遊んだことが楽しかったです。
- テントを立てたり、片付けたことをがんばった。
- 写真立て、皿洗いをがんばった。
- △ 材料をもっと拾えばよかった。
- △ ご飯をちょっと食べ切れなかった。

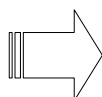
1回目の感想は、1年生になって2ヶ月しか経っていなかったもので、ボランティアと一緒に考えながら書く子がほとんどだった。1年生になったばかりで当たり前ではあるが、アンケートの質問に対して具体的ではなく、「○○をどうした」と言った感想で、自分の思いなどが表現できていなかった。中には、感じたこと・思ったことを記入できた子もいた。

入学から5ヶ月が経過し、2回目になると上記のように、一つ一つの活動においての自分の行動や気持ちをふり返りながら、より詳しく感想が書ける子が増えてきた。1回目、2回目と様々な体験活動を行う中で、自分自身のことをより深く考えることができるようになったと考えられる。がんばったことばかりでなく、難しかったことなども書いていた。

13 保護者の感想

～第1回目(事後)：保護者の感想～

- 1人で参加できたことが本人にとって自信になったようです。
- 1番の変化は、1人で寝室へ行き、「先に寝とくね。」と言うようになったことです。
- 前は全く興味を示さなかったが、景色などを見るようになりました。
- 前より自分でやりたいと言うことが多くなってきました。
- 役割を与えられて、責任感が芽生えました。
- いつもは人見知りですが、友達や先生と交流が図れたようで、成長を感じました。



～第2回目(事後)：保護者の感想～

- 以前と比べると公園などに行きたがるようになり、料理の手伝いもしてくれます。
- 何かをするときに、恐れずにチャレンジすることが少しできるようになったと感じます。
- 以前より社会的になった気がします。
- 以前に比べ、何にでも挑戦するが増えてきました。
- そうじでは、本人自ら手伝ってくれるようになりました。
- 公園で知らない子に声をかけて、友達になり、協調性が身についたように思います。

上記は、活動1回目事後と2回目事後の保護者の感想をまとめたものである。1回目ですべての家庭生活や子供の言動からどのように変化が見られたか保護者なりに多くの変容に気付いていることが分かる。2回目になると「以前と比べ・・・」という保護者の感想が多数見られた。1回目・2回目の体験活動や多くの人との関わり合いを通して、様々なことへ積極的に取り組む姿勢や意欲につながったと伺える。

14 成果

- 親元を離れた宿泊を伴う生活で不安や緊張を抱える中、各種体験活動や共同生活を体験することで基本的な生活習慣を身に付けるきっかけになり、様々なことへ自信が付いた子が増えた。
- 班付きボランティアと活動することで、安全面に考慮した活動ができた。
- 竹水鉄砲や自然物写真立て作りなど工夫を凝らした計画を実施し、普段と違う体験活動を味わうことができた。
- 2カ所の施設で活動したことにより、それぞれの施設の良さを生かした活動ができた。